

はじめに

東京大学大学院教育学研究科・学校教育高度化センターでは、2010、2011年度の2年間、「学校における新たなカリキュラムの形成：次の学習指導要領改訂を展望して」を研究課題として設定し研究を行ってきました。それに引き続いて、本年度から2年間（2012、2013年度）の予定で「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーション」をテーマに研究プロジェクトを開始しました。これは、昨年度に採択された科学研究費補助金基盤研究A「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」（通称イノベーション科研、2011年度から2013年度まで）のテーマをそれ自体としてセンター全体の研究活動の中心に位置づけようという意図のもとに設定されたものです。

このイノベーション科研は、新たなカリキュラムの形成を「カリキュラム・イノベーション」として概念化しようとするものです。特に、アカデミズムにおける学問体系を高校・中学・小学校へとおろしていくように構成されていた従来の教科カリキュラムの構造を転換し、職業や政治経済を中心とする市民社会生活との関連（社会的レリバンズ）を有するカリキュラム（社会に生きる学力形成）を構想しようとする点に、その特徴があります。

今回の公募型研究プロジェクトでも、大学院生を対象として、院生がカリキュラム・イノベーションへ向けての研究フロンティアを開拓する担い手となることを期待して、研究科内で公募をしました。その結果、大学院生グループ6件を採択し、2012年6月から2013年2月までの9ヶ月間研究を行いました。6月、10月、1月に中間発表会を行い、3月6日には公開で最終発表会を行いました。

その成果が、以下の研究報告です。

本年度の院生プロジェクトの各研究は、教育の社会的存立構造を視野に入れつつ、学校と学校外との相互関係に注目してカリキュラムの改革を展望しようとしている点で共通の方向性を有していると思います。これは、イノベーション科研が追求しようとしている方向性とも重なるものであり、ある意味でそれを先取りする論点も提起され、実りある成果が上げられたと判断しています。

これらの研究報告について忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

2013(平成25)年3月

学校教育高度化センター長 小玉重夫